令和８年度第１回第４次子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

１　開催日時
令和８年７月１６日（木）　１０：００～１２：００
岐阜県庁　２０階会議室にて開催

２　概要
「第４次子どもかがやきプラン　アクションプラン２０２６」の施策内容及び特別支援教育における課題及び取り組むべきことについて、意見を聴取した。

３　委員から出された主な意見
＜政策Ⅰ　多様なニーズに応じた学びを支える環境の整備＞
・特別支援学校間で施設・設備の格差があり、設置基準を満たしていない学校では教室不足や活動場所不足が課題となっている。長期的な整備だけでなく、当面の対応策や見通しを示してほしい。
・東濃地域・飛騨地域にも高等特別支援学校機能を整備し、自立や就労継続に必要な力を育む学びの場を充実してほしい。
・医療的ケア児の通学支援について、モデル事業後の方向性や支援回数・対象範囲の見通しを示してほしい。
・医療的ケア児の通学支援については、福祉事業所や放課後等デイサービスとの連携を進めるとともに、長距離送迎による保護者負担の軽減に向け、部分的な支援も含めた通学支援制度の充実を図ってほしい。
・学習環境整備や高等特別支援学校機能整備について、保護者・児童生徒・教職員へ整備の見通しや方向性を丁寧に説明する必要がある。
＜政策Ⅱ　多様なニーズに応える学びの場の充実＞
・高校通級は発達障がいのある生徒の社会性やコミュニケーション能力の育成に有効な支援であり、現場からのニーズも高い一方で、障がい特性を受容できていない生徒を支援につなげることに難しさがあり、現状は切実な状況である。
・通級による指導の成果は日常生活での支援によって汎化されるため、通常の学級担任との連携強化が重要である。
・不登校や発達障がいのある生徒が通信制高校等へ進学した後の実態や支援状況を把握する調査を行うとともに、支援機関につながれず支援の網から漏れている子どもたちに対する支援策を充実してほしい。
・少人数で丁寧な指導を受けられる環境では、子どもが落ち着いて学習でき、学力面や学校生活の安定につながっている。
＜政策Ⅲ　学びの場を支える教員の専門性向上＞
・人事異動により特別支援教育に関する知識や実践の継承が難しいため、学校として継続的に知見を蓄積・共有する仕組みを整えるとともに、研修機会の充実を通して学校全体の専門性向上を図る必要がある。
・特別支援学級担当者には経験の浅い教員も多く、実際の子どもを見ながら学ぶことができる実践的な研修が有効であり、通級担当者向けの具体的な指導方法研修を今後も充実してほしい。
・地域の特別支援学級では担任交代により支援方針が大きく変わることがあるため、

教員の専門性向上を図るとともに、個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した丁寧な引継ぎにより、支援の継続性を確保してほしい。
・若手教員が増える中、授業力や特別支援教育の専門性を継承していくことが課題であり、特別支援学校間の授業公開や学び合いを進める際には、授業改善につながる共通の視点を整理して実施することが重要である。

＜特別支援教育において課題となること今後取り組むべきこと＞

・将来の「親なきあと」を見据え、子どもが自立して生活できる力を育む教育を推進するとともに、教育環境の整備と本人・保護者の障がい理解の促進を両輪として取り組むことが重要である。